

輝くゲーマーにフォーカスするeスポーツマガジン

GAME STAR

Vol. **24**
JUN.2019

FREE

教えて!アクセル先生!
手軽に快適なゲーミングPCが手に入る!
BTOパソコンって何だろう?

ヴァっさんとマルちゃんの
ハースストーン食事会⑨

LJLに大旋風!韓国のスター選手参戦!

Sengoku Gaming
新ロスター発表会に潜入!

目指すは「ゲームのおにいさん」

2438学園

Libalent Calamari

[PR]



は、仲間を探しています。

経験者未経験者問わず、これから世界を変えられるサービスを作りたい仲間をエイプリルナイツは探しています。とにかく面白いことをカタチにしたい方は弊社担当者までご連絡をお待ちしております！

WEBサービス
企画運営

システム制作
支援事業

e-Sports
関連事業

【お問い合わせ先】採用/広報 担当者宛
recruit@april-knights.jp



APRIL KNIGHTSは、e-Sportsの社会人リーグAfter 5 Gaming Vol.3にて2連覇を達成しました！上の写真は活動の写真です。

[PR]

えけすぽ！

個性豊かな弊社のゲーマー社員・社風を全てお見せします。
一風変わった「エイプリルナイツ独自の働き方」を是非ご覧ください！



@akspot_game

https://akspot.game/



知！マル知る！

～マルコとマルチな情報メディア～

PC、ガジェット、ゲーム、イベント取材、企業訪問、クリエイターインタビュー、etc
あなたに役立つ・面白い・楽しい記事がぎっしりとあります。是非ご覧ください！



@marushiru_com

https://marushiru.com/



GAME STAR

輝くゲーマーにフォーカスするeスポーツマガジン

Vol. **24**
JUN.2019

Contents

P4 目指すは「ゲームのおにいさん」

2438学園

Libalent Calamari



Cover
2438GAKUEN (Libalent)
Cover Photo
Junpei Ishikawa

P11 教えて!アクセル先生!
手軽に快適なゲーミングPCが手に入る!
BTOパソコンって何だろう?

P12 LJLに大旋風!韓国のスター選手参戦!
Sengoku Gaming 新口スター発表会に潜入!

P14 ヴァっさんとまるちゃんのハースストーン食事会⑨



編集記

Gumスタを手にとって頂きまして、ありがとうございます。

今回は Libalent Calamari 所属 2438 学園選手へのインタビューを行いました。スプラトゥーン2で選手として、また芸人として活躍する2438 学園選手のゲーマーとしての起源を語っていただきました。ぜひ御覧ください。

令和に入り、1号目の Gumスタとなります。日本のeスポーツシーンは日々加速度的に拡大しており、令和ではより一層成長した Gumスタをお送りできたらと存じます。

引き続き、よろしく願いたします。

Editor in Chief
Masumi "みずいろ" Fukuda

Staff
arika, Axl, Hogeji, KouTea,
nacchicchi, Tamo,
Tao, 泳ぐマングース

Design
ELEFANT Inc.

Special Thanks
株式会社ゲート
株式会社エイプリルナイツ

発行
GANYMEDE 株式会社



WWW.GAMESTAR.TOKYO

※本誌掲載の写真、記事の無断転載および複写を禁じます。

2438学園

Interview

Libalent Calamari

目指すは「ゲームのおにいさん」

日本人の多くが一度は見たことがある『おかあさんといっしょ』。

そこに登場するうたのおにいさんや体操のおにいさんは、子どもたちに大人気だ。

一方でeスポーツ界には、「ゲームのおにいさん」を志す男がいる。2438学園選手だ。

プログラミングチーム Libalent Calamari に所属する『スプラトゥーン2』のプロゲーマーである。

彼がどのようにしてゲームのおにいさんへと歩み始めたのか。

半生を紐解くと同時に、未来への思いを聞いた。

Photo / Junpei Ishikawa Text / Shingo Morita

強いプレイヤーを求めていた学生時代

—今回はお笑い芸人と『スプラトゥーン2』のプロゲーマーという2つの顔を持つ2438学園選手に、いろいろとお話を伺いたいと思います。まずはゲーム歴から教えてください。

祖父がとてもゲーム好きで、ファミコンの『ギャラガ』というシューティングゲームをプレイしているのを、ずっと隣で眺めていたのを覚えています。ゲームを買ってくれるのも祖父でした。ほかに2歳くらいの私が初代のゲームボーイを持っている写真が残っていたりと、物心つく前からゲームは身近にありました。

—ご自身ではどんなゲームをプレイされてきましたか？

小学校のころは『ポケットモンスター』が中心でした。中学時代は部活が忙しかったこともあってゲームから離れていたんですが、高校生になって『ニンテンドウオールスター! 大乱闘スマッシュブラザーズ』(以下、スマブラ)をやるようになりました。

最初は放課後に自宅で遊んでいたのですが、徐々にヒートアップして教室のテレビ、食堂のテレビまで使うようになっていったんですね(笑)。すると同級生だけでなく自信があるという下級生が挑んでくるようになって。そんな彼らをボコボコにしていたら、いつの間にか学校で1位になっていました。

—次々とチャレンジャーが出てくるのはマンガのようですね。

またそのころは大学の学園祭でスマブラの大会を開催していたので、出身地である青森県内の大学に向かって強い人と戦っていました。ただそれでも勝つことができていたので、「もっと強い人に会うためには東京に行くしかない」という思いにかられたんです。mixiのコミュニティでオフ会が活発に行われていたので、「そこに参加しないと俺はもう成長できない」と。

通っていた高専は5年制だったんですが、親を説得して東京の学校に編入までしてスマブラ漬けの日々を送っていましたね。

—「より強いプレイヤーを求めて上京」。この時点で、もはやゲーム好きの域を超えているような向上心を感じます。

高専は卒業こそしたんですが就職はしなかったんです。さすがにどうしようかと思っていたときに、青森の高専時代に文化祭で友だちと漫才をやったことを思い出したんです。あとは『ゲームセンターCX』が話題になっていたこともあって、「お笑い芸人で人気者になればゲームも仕事になるんだ」と思ったこともきっかけでしたね。それで高専時代の相方に声をかけて青森から出てきてもらって、コンビとして活動を始めました。

—確かに有野課長の存在は際立っていましたよね。

2438選手のお笑い芸人の目指し方にも合点がいきます。

お笑い芸人になっても引き続きスマブラをやっていたんですが、任天堂のゲームは公式の大会が少ないため、なかなか仕事に結びつかずなりました。これまた今後の身の振り方を考えていたときにE3で『スプラトゥーン』が発表され、トレーラーを見た瞬間に「これだ!」と思ったので発売日からプレイを始めました。

—ゲーマーとして感じるものがあったわけですね。その予感は見事に的中しました。

「このゲームは絶対に流行る!」と確信できましたからね。



そこからYouTubeの活動を始めたところ、お笑い芸人としての活動も軌道に乗ってきました。Wii版ではプロなどは関係なく、YouTubeに動画をアップして楽しんでいる感じでした。

それでも発売日からの3ヵ月で1000時間プレイしていました。同棲していた彼女に「ゲームばかりして」と別れを告げられても「楽しんだよ」って返すほど(笑)。姉

の結婚式以外は全部やっていたが、地力はそのなかで高められたのかなと。

日本初のお笑い芸人プロゲーマーが誕生

—楽しさのあまり生活が変わるほどプレイしたスプラトゥーンですが、改めてのめり込んだ魅力を教えてください。

倒す倒されるだけでない、「塗る」という要素が大きいですね。相手を倒さなくてもチームに貢献できる場所。床を塗った面積が広いほうが勝ちという、誰が見てもわかりやすいルール。私もそうですが、FPSやTPSをプレイしたことがない人でもたくさんプレイしているというのがすべてを物語っていると思います。

—老若男女がすべて入り込めるゲームはなかなかないですね。そんななか『スプラトゥーン2』ではプロゲーマーとして活動していくことになるわけですが、どんな経緯があったのでしょうか。

スプラトゥーン2が発売される少し前に『PUBG (PLAYERUNKNOWN'S BATTLEGROUNDS)』などが話題になって、「eスポーツ」という言葉が広まってきていました。その流れでスプラトゥーン2も競技シーンが活発になると思ったので、私自身もその輪に入っていたらと思う、交流のあったプレイヤーに声をかけてLibalentに話をもちかけました。

—2438選手が立ち上げたチームだったんですね。

ただチームのメンバーは上手な選手が揃っているんですが、実はぼくが一番ダメでして(笑)。スマブラのときはゴリゴリの選手だったのですが、スプラトゥーンは「楽しむ」が先にあったので、頭を選手に切り替えるところで苦戦しました。

—いちプレイヤーから競技選手になるというところで、

壁を感じたということでしょうか。

1000時間プレイで技術はついていたのですが、チームとしての立ち回りがわかっていなかったんですね。前衛後衛の連携など単にオンラインでプレイする上では重視されていなかったもので、役割に対する知識、チームとしての勝ち方が足りていなかったです。

あとはチームのメンバーは持ちブキも決まっていて、「このブキなら日本一」みたいな選手が揃っていたので、チームに必要なブキをその都度練習しています。そのためLibalent Calamariは、「2438が活躍すれば負けないチーム」と言われることがあるんですよ。

—責任重大というふうにも見えますが、今はどんな練習をしているのですか？
午前中に起きて、まずは午後1時から3～4時間個人練習をします。少し休憩を挟んで、夜7時からチーム練習をまた3～4時間。毎日7時間前後は練習に費やしていますね。チーム練習は月曜日と木曜日が休みで、別のゲームや個人の配信をする日にしています。ただ僕はお笑い芸人として

の配信があるので、結果的に無休でスプラトゥーン2をしています。まさにスプラトゥーン2にご飯を食べさせてもらっているといったところですね。

因縁の相手・GG BOYZとの対戦

—チームとして研鑽を積んで大会に出場するわけですが、まずはスプラトゥーン甲子園(以下、甲子園)について教えてください。

私個人では第2回から出場しています。スプラトゥーンをプレイしているスマブラ仲間を集めて、「面白そうだから」というノリで参加しましたが4回戦まで勝ち上がれました。Libalent Calamariとしてはスプラトゥーン2になって、第3回からです。その第3回大会は中国予選の決勝で負けて、オンライン代表決定トーナメントでも負けました。

Libalent Calamari

2438学園

目指すは
「ゲームのおにいさん」





2438学園

Libalent Calamari

知られてしまうデメリットも大きいですね。GG BOYZ側はあまり作戦を表に出さないのですか？

出していないわけではないと思うんです。ただ相手の動きを研究する以上に、こちらのスナイパー・びん選手を対策されることが痛い。練習でやりたいことがバテて本番で相手の動きが変わってしまったら元も子もありませんから。「単なるメタリ合いにならないようにしたい」というのがこちらの思惑でした。

——あくまで本番のための練習、ですね。甲子園に話を戻しますが、中国予選の決勝戦で負けた敗因はどこにあると思いますか？

オフライン大会独特の緊張感だと思います。私はスマブラでの経験があったり、そもそもお笑い芸人として舞台上に立つことがあったりするので緊張することはないのですが、やはりその場に立たないとわからないことって多いですよね。メンバーの実力を発揮させてあげられずに大会が終わってしまったかなと思います。

ただそれを踏まえて、試合に入る前の言動とか態度とかを見つめ直しましたね。チームのリーダーはくろすっω・) 選手ですが、私も最年長とい

うことでできることはないかと。それで声掛けでのケアなどいろいろと試したりもしました。

——コミュニケーションを取ろうとしたわけですね。

試合中って余計なことと言わないじゃないですか。敵の居場所を伝えたり業務連絡的なことが多いですが、「今ので倒せちゃうの!」というような前向きな言葉を入れたら、目に見えて調子が上がっていったんです。もちろんダメなものダメとメリハリをつけてはいます。ほかのチームはそこまでしなくてもできるのかもしれませんが、私たちなのやり方を見つけたことは大きいです。

——チームとしてさらに絆が深まったというのは素晴らしいですね。しかし第4回のスプラトゥーン甲子園では、北陸予選でまさかの1回戦負け。オンライン大会からの本戦出場となりました。

練習の段階から自信はあったんです。「優勝できる!」と盛り上がっていたのに、オンライン予選をギリギリの4位で通過

しました。油断…というよりもプレッシャーですね。4位には入れたのでまた話し合いをして、気持ちを入れ替えました。私は甲子園の本戦までにマニユバーをマスターすることにして、約4ヶ月ずっと猛練習。配信で野次られたりもしましたが、それすらもモチベーションになりましたね。

——そして迎えた甲子園の本戦ですが、ここでもGG BOYZが行く手を阻みました。

またオフライン大会慣れをしている強みに負けてしまったかなと。オンライン大会とオフライン大会の勝ち方は違うと思っていて、なかなか説明しにくいんですが、その勘というか経験というか、負けたときはまだまだ遠い存在だなと思いました。

でも消化不良ではなく「出し切った」という気持ちも大きくて、後日落ち着いて振り返ったときに「もう少しうまく立ち回れたら勝てたかも」という声が出たほどです。

——試合を重ねていくなかで、手応えをつかんでいったわ

相手はGG BOYZでした。

——GG BOYZは世界大会でも優勝する世界クラスの強豪ですね。戦ってみて思うところはありましたか？

本番の前に練習会では五分か勝ち越すこともあるんで、そこまで大きな実力差はないんじゃないかと思っています。ただ甲子園で4大会中3回優勝を経験しているダイナモンは怪物。スプラトゥーンを知り尽くしているような動きをするんです。たとえば練習会で見せたムーブは本番で絶対にさせてくれない。だからNPB eスポーツシリーズ スプラトゥーン2 (以下、NPB大会) のときは、直前に1回も練習会をしませんでした。「なんで相手してくれないの?」と連絡が来んですが、そこは「勝ちたいからだよ」と返しました。実際に勝つこともできましたので。

——強豪との練習は得るものも大きそうですが、手の内を



けですね。話が飛びますが、NPB大会ではついにリーグ戦でGG BOYZ（福岡ソフトバンクホークス）を撃破します。

そのかいあってNPB大会ではパ・リーグで優勝することができました。ただパ・リーグのリーグ代表決定戦でまた負けてしまったんですね。でもそのときはもう「勝てたのに！」という気持ちでした。2試合したのですが、どちらも残り20秒くらいまでどちらに転ぶかわからなかった。差は確実に縮まっている。今回は相手の方が運を持っていたというくらい。甲子園のときは残り1分くらいで「もうヤバイな」という精神状態だったので、次は勝てると思っています。

スプラトゥーンと2438選手の未来

——ただそのGG BOYZも、けいとー選手率いる横浜DeNAベイスターズ（以下ベイスターズ）には負けてしまいましたね。

実は練習会ではベイスターズに7割くらい勝ち越していたので、ベイスターズと対戦したかったですね。組み合わせがなんとかならんか、と本気で考えました（笑）。でもNPB大会に挑戦するチャンスをくださったオリックス・バファローズの皆さんには感謝しかありません。「人気も実力もあったから指名しました」と言っていただけなのですが、もし私が指名する側だったら絶対GG BOYZですから（笑）。

——甲子園にNPB大会にと、スプラトゥーン2の競技シーンは盛り上がっているようでなによりです。

大きな大会はいい感じですよ。私たちも大きな目標があってうれしいです。ただスプラトゥーン2になって強さのレートが数字で表示されるようになったことで、ユーザー大会の参加者は減っているという話も耳にします。レート2400のプレイヤーが「2600の人に勝てないから大会に出たくない」という具合に敬遠するようになります。



Libalent Calamari

2438学園

目指すは「ゲームのおにいさん」

草の根の大会上りの私としてはとても寂しいので、なにかできないかと考えてはいます。

——2438学園選手主催の大会などが開催されたら盛り上がりそうですね。ほかに今後の目標などを教えてください。まずは単純にシーンを盛り上げられたい、というのがあります。大好きなゲームのシーンの中心に常になりたいですね。

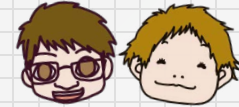
あとは今後もYouTubeの活動で、ガチでプレイしながらも楽しんでいるというところは見せていきたいと思っています。笑いながらプレイしていても、いざ本気を出したらすごいぞと。そのギャップを楽しんでもらえたらうれしいですね。そういう方って、過去を見渡してみても高橋名人くらいか思い浮かばないんですね。お笑い芸人としての職業柄、タレント性も大事にしていきたいです。そしてゆくゆくは自分でeスポーツのチームを持てたらなあとおぼろげに考えることもあります。

——自前のチーム…、壮大な夢ですが2438学園選手ならいつか本当に叶えるような気がしてなりません。本日はどうもありがとうございます。今後の活躍も期待しております！



2438GAKUEN Profile
1989年、青森県生まれ。eスポーツチーム「Libalent Calamari」に所属するお笑い芸人初のプロゲーマー。2015年2月に関谷風次と「裏切りマンキークング」を結成し、YouTubeチャンネル「裏切りマンキークングCh」で数々のプレイ動画を展開。「2438（にしざわ）学園」という選手名は、本名+大阪の専門学校に由来。

教えて！アクセル先生



手軽に快適なゲーミングPCが手に入る！ BTOパソコンって何だろう？

PCゲームを快適にプレイするにはゲーミングPCが不可欠です。自由な構成で自分に合ったゲーミングPCを安価に購入できるBTOパソコンは、ゲーマーにとって心強い味方と言えるでしょう。今回のアクセル先生はそんなBTOパソコンについて紹介してくれるそうです。おや？何やらみずイロくんが新しいパソコンに興味を持ったみたいですね。



みずイロ

そろそろ新しいパソコンが欲しいなあ…でも、どう買えばいいんだろう？



アクセル

パソコンを買うならBTOがオススメだよ！BTOならPCの知識がなくても自分好みのパソコンを手軽に買うことができるんだ！



みずイロ

へー！BTOってスゴいんだね！もっと詳しく知りたいな！



アクセル

じゃあBTOの基本を紹介するよ。BTOは自分の好みに合ったパーツを選んで注文できるんだ。しかも、BTOは一般的なPCに比べて価格も安いんだ！

自分だけのこだわり構成！

BTOはパーツを選んで自分好みのPCを組んで貰えるんだ。遊びたいゲームに合わせてスペックを調整したり、好きなメーカーのパーツを組み合わせて選べるのがBTOの魅力だね！

LEDで魅せるPCに！

LED付きのケースやLEDファンを選べば光らせ方も自由自在だよ。好みのパーツを選んで自分だけの魅せるPCを手に入れよう！

予算に合わせて注文できる！

パーツを細かく選べるBTOなら価格も自由自在なんだ。自分の予算に合った最適なパソコンを手に入れることができるよ！



LEONIS

AMD製のCPUとグラフィックスを採用した、コストパフォーマンスに優れたエントリーモデルのゲーミングPC。低価格を実現しながらも、バランスの取れた性能で快適なゲームライフが楽しめる。109,980円

水冷もパッチリ！

取り付けに気を使う簡易水冷もBTOならパーツを選ぶだけで済むよ。ショップによっては本格水冷も対応してくれるから、本格水冷PCが欲しいけど自分で組むのは自信がないという人にはピッタリだね！

組み立て済みPCもある！

パーツや構成にこだわりがなかった時や、「今すぐ欲しい！」という場合には組み立て済みのPCも売っているよ。組み立て済みPCは一般的によく使われる構成で販売されていることが多いから、組み立て済みPCから選んでみるのいいね。



BTOパソコンを買うならCTG!!

東京都町田市にあるBTOパソコンショップCTGです！eスポーツエントリーモデルからハイエンドな本格水冷モデルまで様々な種類のパソコンをお客様のご希望に添った物を製作します！宜しくお願致します！



<https://ctg-btopc.com/>

LJLに大旋風! 韓国のスター選手参戦! Sengoku Gaming 新ロスター発表会に潜入!

2019年6月4日にe-sports SQUARE AKIHABARAで開かれたSengoku Gaming新ロスター発表会。世界最高レベルの選手の加入に加え大型スポンサーであるサントリーとQTnetとの契約が公開された。九州から世界を目指すSengoku Gaming飛躍の夏シーズンとなり歴史を塗り替えることになるか?



スポーツの世界人口ランキング、1位から順にバスケットボール、サッカー、クリケット、そして4位のテニスと肩を並べるゲーム、リーグオブジェンド。全世界で1億人を超えるプレイヤー数を誇るリーグオブジェンドは世界最高のeスポーツタイトル。多くのゲーミングチームが熾烈な争いを繰り広げているリーグオブジェンドの日本最高峰の舞台が『League of Legends Japan League (通称LJL)』だ。1年間で春と夏のシーズンに分かれて開催されるこのLJL、6月からはじまる夏シーズン『LJL Summer Split』は、優勝チームに賞金1000万円とリーグオブジェンド世界最高の大会であるLeague of Legends World Championship(通称WCS)の参加権を得る。

そんなリーグオブジェンドの日本コミュニティを突如、とあるニュースが騒がせた。「Sengoku Gamingが韓国のトッププロを獲得したらしい。しかもその選手は韓国最強のチーム、SK Telecom T1の選手。」赤いチームアイコンにユニフォーム、比較的年齢の若い選手層、昨年まではLJL 2部リーグに属していたが、しかし着実にオーディエンスの期待を集めているチーム、それがSengoku Gaming。その一大事を受け、Sengoku Gamingはメディア関係者を集め、会見を行った。そこで紹介されたのは韓国人プロプレイヤーBlank選手と様々なトップチームでのコーチ経験があるPoohManDuコーチ。両名はeスポーツ大国、韓国でもトップに立つ超一流プレイヤーだ。

Blank「LJLでいい成績を納めてファンの皆様の期待に応える。」

爽やかな笑顔と、日本語を交えた自己紹介をしてくれたBlank

選手。優しさを感じさせる物静かな態度は、緊張した会場の空気を緩めた。

PoohManDu「サマーシーズンなので優勝して、WCSを目指したい。」

そう話すのは今回Blank選手と共に紹介されたPoohManDuコーチ。彼もまたまた目を見張る実績の持ち主であり、元チームメイトであるBlank選手直接のオファーで入団を決めたという。その両名が所属していた韓国の超名門チームSK Telecom T1は、WCSでの優勝経験もあり、長らく絶対王者として君臨していたチームだ。

実績、知名度が先走りしていた両名だが、すでにチームに馴染み親しんでいる様子であった。

岩本氏「LJLの優勝、世界大会出場を目指していく。」

前回シーズンでは1部初参加ながら、王者Detonation Focus Meから1試合勝ち取った唯一のチームであるSengoku Gaming。このように意気込むオーナーの岩元氏は今回の新メンバー両名の加入に深く加担している。



Blank 岩元オーナーが韓国に来て、「あなたが必要だ」と直接話しをしてくれて、心が動いた。

Blank 選手へのオファーはオーナー岩元氏が韓国へ出向き、直接交渉という手段を経て行われた。そのような経緯から、新メンバーとSengoku Gaming間の強い信頼関係が感じ取ることができる。オーナーや所属選手は意気込みを聞かれると口を揃えて、「WCSを目指す」という。今回のメンバー加入やこの発表会で、その本気の意思が感じられる。

全スターメンバーの紹介が終わると、 Q&Aセッションが開かれた。



Q. Blank 選手へ、様々なチームからオファーがあったと思うが、なぜ日本のSengoku Gamingへ加入したのが決定的な理由はなんだったのか?

A. Blank 選手「一番真剣に、きちんとオファーをしてくれた。また日本は近いので、良い成績も出せるのではないかと思います。」

1流選手とはいえ異国の地で生活することはストレスにつながるだろう。その点で言えば文化差異が比較的少なくまた母国から近い日本はいい環境とも言える。

Q. PoohManDu 選手へ、現在LJLでは上位3チームが猛威を振っていると思うが、上位チーム打倒に向けての自信、意気込みはどうか?

A. PoohManDu 選手「上位3チームの中ではDetonation Focus Meが一番強いと聞いています。ただSengoku GamingもBlank選手が入りましたし、他にも上手な選手がいますので、上位を十分狙えるのではないかと考えています。」Blank選手とPoohManDu選手は、始終控えめな返答をしていた。2人の謙虚な姿勢は今後、多くのファンのお好感を得ることが確信できる。

Q. Blank 選手に会ってどのような印象を抱いたか?

A. OdduGi 選手「一緒に練習するだけで勉強できるし、モチベーションがどんどん上がる。」

Taka 選手「Blank選手が来て2日目には買い物に行き中の良



い友達のように。試合中には結構激しく怒られる。(笑) チームメイトとして大きな刺激になっていることもわかる。英語話者のMaplestreetコーチの話は、オーストラリア育ちのTaka選手が即興で翻訳をしたり、OdduGi選手は韓国人ながら日本語で返答をするなど、柔軟でアットホームな空気を作り出していた。

今回新ロスター発表会を行なったSengoku Gamingも参加し、全8チームが優勝を目指して戦いワールドカップシリーズの参加権を争う

『LJL Summer Split』の開幕は、6月15日(土)だ。昨シーズン95パーセントの勝率で優勝を果たしたDetonation



Focus Me含む上位3チームを相手に、どのような奮戦を見せてくれるのか、また日本eスポーツ界に現れた超ビッグネーム、Blank選手とPoohManDuコーチの活躍に期待したい。試合はヨシモトホール(東京都渋谷区)で観客席220席の中行われる。チケットはオンラインサイトから購入可能。また試合内容はTwitch.tvにて配信されるので、Sengoku Gamingのみならず、正に日本トップの舞台を観戦しよう。

Sengoku Gaming Profile

2017年に設立された九州を拠点とする、トップeスポーツチーム。チームは総勢30名規模の、複数の部門から構成されるマルチゲーミングチームとして、国内外で活躍中。Sengoku Gaming LoL部門は2018年、LJL 2部からスタートし、2019年1月から1部リーグに昇格。2019 Spring Splitは初参戦にも関わらず4位という成績をおさめている。





お店情報
pizzeria GG 吉祥寺
東京都武蔵野市吉祥寺南町 1-17-1
プレジール B1F
0422-26-5024
平日 11:30 ~ 16:00 / 17:30 ~ 22:30
土日祝 11:30 ~ 22:30
定休日無し

HEARTHSTONE
ハースストーン
ハースストーンとは?
about Hearthstone
スマホやPCで遊ぶことが出来る Blizzard Entertainment社のオンライン構築型カードゲーム。全世界で1億人が遊んでいる。

HEARTHSTONE

ハースストーン

炉端の集い™

「酒場」でみんなが待っている！
馴染みの友達や、新たな出会いがそこにあり、
きっとあなを歓迎してくれる。
ハースストーンを通して、
さらなる楽しみを体験しよう！

ハースストーン「炉端の集い」ウェブサイト

<https://firesidegatherings.com>



「燃えよ! 炉端の集い!」炉端の集いサポートプログラム開催中!

炉端の集いに参加したり、新たな酒場の主人としてデビューするいいチャンスだ!

「燃えよ! 炉端の集い!」では、参加者に配布できる日本限定グッズを提供し、

今まで以上に酒場の主人と女将をサポートするんだ。



コイン



ポスター



月別キーホルダー



ディスプレイパネル